



いまいは
今

vol. 258

発行 今井町町並み保存会
発行日 令和3年12月1日
電話 0744-22-1128
<http://www3.kcn.ne.jp/imaicho/>
e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp

◇ご意見・ご感想は
今井景観支援センターまで

第44回 全国町並みゼミ奈良大会 開催

「町の資産のいかしかた」

「なにを、だれが、どのように」

会長 若林 稔

全国町並み保存連盟の全国大会は、地元奈良まちづくりセンターに事務局を置いて11月12・13日の2日間、5分科会でテーマに合わせた課題で町並み保存の話し合いや発表会などが開催され、今井町町並み保存会からも5名が参加して、各会場に分かれてまちづくりの研修に参加した。

相変わらずコロナを最大限に意識した大会であったが昨年のすべてZoom開催から考えると現地参加申込者130人と実行委員、地元の実務者も含めて200名(推測)が集えたので、旧知を温めあえていい大会になった。



第3分科会 「まちづくり制度」



交流会

12日、私は第3分科会、生活文化を継承する手法と課題「何を「残すのか」」「コーディネーター清水重敦(京都工芸繊維大学教授)に参加した。

暮らしや生業、伝統行事に用いられた道具・器具などの継承の取り組みを事例で紹介し、こうした活動に対してはまだまだ制度的な支援策が見当たらない現状を課題にして意見交換がなされた。

我々の日常に置き換えて、戦後から日々、便利だ、合理的だ、などの考えから制御しようとしてきた自然から温暖化現象や、過度の自然破壊など数えきれない地球規模の変動が起きているのは景観

を無視してきた人類へのしつぱ返してあって、遅れていると錯覚してきた江戸時代までの暮らしが如何に合理的であり、地球環境にも合っていたのかを再確認できた。

今井町のかつての生活様式は「今の時代にあつては、周回遅れのトップランナーだ」と公言してきていたがこれも正解であつたな!と確信した。

12日夜は、飲食なしの交流会が開かれた。各地からの報告と峯山富美賞の贈呈式が行われた。

13日は、文化会館大ホールにおいて、オープニングアクトとして朗読会「町家よ語れ」が30分間上演されたあと、奈良町まちづくりシンポジウムが「まちの資産のいかしかた」なにを・だれが・どのように」をテーマに二人のパネリストとコーディネーターによって事例を上げて語られた。



(第1、2分科会の報告は次月号に掲載します)

檀原市 ふるさと納税

— 今井町の産品紹介③ —



11月16日、大工町筋の「農家のオーベルジュこもれび」を訪問して、女将の恵良容子さんにお話を伺いました。

もともと明日香村で農家民泊を営んでおられ、今井町では二番目の出店と聞きました。宿泊は一室(2人)だけですが、ランチ・ディナーは25席あり、大和伝統野菜を使った料理と、ジビエ(狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉)料理が特徴で女性に人気があります。猟師でもあるご主人が明日香村を中心とした地域で鹿や猪を獲っているそうです。

10月に入ってコロナの感染が下火になって、お客様の人数も順調に回復しているとのことでした。

ふるさと納税へ産品提供は、今年4月から始めたばかりで一泊二日・二食付の宿泊食事券のみでかなり高額ですが、10月に一組の利用がありました。

続いて、御堂筋にある「イツツマン」の登録商標でおなじみの恒岡醸造本店を訪問して、ご主人の恒岡新一朗さんに取材させていただきました。

恒岡家は、ご先祖が江戸時代後期に田原本町満田から今井町に移り住み、幕末には大和絣の機屋を営み、明治時代末期に醤油の本醸造に商売替えして今日まで続く今井町内でも指折りの老舗です。

ふるさと納税の産品には、平成29年10月から出品しておりますが、品目は一種類だけで本醸造醤油(1ℓ)が3本と、ポン酢しょうゆ、だししょうゆ等小瓶4本、計7本の詰合せです。

お歳暮の時期には、贈答用に使われるのが大口の注文もあるそうです。

今後は、ふるさと納税の産品として醤油醸造蔵の見学会や、自分で手作り醤油醸造の体験会等を企画しようかなと楽しみに語っておられました。



醤油 7本詰セット

全国町並みゼミ開催に合わせて

小樽市・茨城県真壁から来町

11月11日午後、北海道小樽市から中一夫さん(小樽・朝里のまちづくりの会)を代表として4人が来町。

全国町並み保存連盟を通じてかねてから若林会長と親交のあった方々が全国ゼミの奈良市での開催に合わせて今井町を見学し、阿伽陀屋若林亭に宿泊されました。一行には、市議員の先生や市役所の職員も含まれていて、夕食を共にしてお互いの活動内容や課題について大いに語り合いました。

11月13日、茨城県桜川市真壁から吾妻周一さん(ディスカバーまかべ会長)他3人の方々が、遅れて新潟から大倉会長も来町。工藤副会長が町中を案内しました。真壁は、昨年度の全国町並みゼミの開催地で、昨年はコロナ禍の為に全面的なZoom大会になりました。その折に、奇しくも今井町と真壁は、江戸時代に練り綿の商いがあったことを掲載した記事を真壁の皆さんに紹介して、関係が一層深まりました。若林会長も一度真壁を訪問して真壁からは今回で二度目の来町となりました。(次号以降に、小樽と真壁から本紙に寄稿していただく予定です)